

ダイズで吸実性カメムシ類の発生が多くなると予想されます！ 莢伸長期～子実肥大中期の防除を徹底してください。

[現在の発生状況]

- ① 8月下旬現在、ダイズ圃場における吸実性カメムシ類の主要種であるイチモンジカメムシの寄生虫数(幼虫及び成虫)は平年より多く、発生地点率は平年よりやや高い(表1)。圃場によって、多発生している地点が見られる。
- ② ダイズ圃場における吸実性カメムシ類として、イチモンジカメムシの他、ホソヘリカメムシ、クサギカメムシ等が確認されている(写真1～3)。
- ③ 8月中旬のかすみがうら市に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は平年より多い。チャバネアオカメムシは主に果樹に被害を与えるが、本年は発生が多いためダイズも加害する可能性がある。
- ④ 気象予報(8月24日発表)によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

表1 ダイズ圃場における吸実性カメムシ類の発生状況¹⁾(8月下旬現在)

発生種	寄生幼・成虫数(頭/25株当たり)			発生地点率(%)		
	本年	平年 ²⁾	順位 ³⁾	本年	平年	順位
イチモンジカメムシ	1.5	0.2	1/11	23	14	3/11
ホソヘリカメムシ	0.2	0.1	5/11	8	12	8/11
その他カメムシ類	0.08	0.1	7/11	8	7	5/11
カメムシ類合計	1.8	0.5	1/11	23	26	9/11

- 1) 調査圃場は、県内の13圃場。
- 2) 平年：平成14～23年までの10年間の平均値を示す。
- 3) 順位：過去11年間における本年値の順位を示す。

[防除対策]

- ① 表2を参考に薬剤防除を実施する。カメムシ類の防除適期は莢伸長期～子実肥大中期(粒の直径が0.5～1cm程度)頃である。特に大粒種のタチナガハでは、発生が多い場合、莢が伸長する8月下旬頃から7～10日ごとに3回以上防除する。
- ② カメムシ類は、莢が黄熟する頃まで加害を続けるため、防除適期以降でも発生の多い圃場では、収穫前日数に注意して防除を実施する。
- ③ カメムシ類の成虫は子実を加害しながら、葉や莢に産卵する。卵からふ化した幼虫も子実を加害しながら成長するため、幼虫の発生状況にも注意する。
- ④ 薬剤散布の際は、薬液が葉だけでなく莢までかかるよう注意する。特に、圃場の周縁部はカメムシ類の生息密度が高い傾向にあるため、丁寧に散布する。

表2 ダイズのカメムシ類に登録のある主な薬剤(平成24年8月20日現在)

薬剤名	希釈倍数 ・使用量	収穫前日数 -本剤の使用回数	有効成分 -有効成分の総使用回数	無人ヘリでの 登録の有無 ¹⁾
アルバリン/スタークル 顆粒水溶剤	2,000倍	7-2	ジノテフラン-3 (但し, は種時の土壌混和1, 散布2)	無 ²⁾
MR. ジョーカー粉剤DL	4kg/10a	7-2	シラフルオフェン-2	無 ³⁾
トレボン乳剤	1,000倍	14-2	エトフェン [°] ロックス-2	無 ⁴⁾
スミチオン乳剤	1,000倍	21-4	MEP-4	有
アミスタートレボンSE	1,000倍	14-2	エトフェン [°] ロックス-2 アゾキシストロピン-2	有
マネージトレボン フロアブル	1,000倍	30-2	エトフェン [°] ロックス-2 イミベンコナゾール-2	有

1) 無人ヘリ散布を行う場合は, 希釈倍数や収穫前日数等が異なるので十分注意する。

2) アルバリン/スタークル顆粒水溶剤と同一の有効成分であるスタークル液剤10は無人ヘリで登録有り。

3) MR. ジョーカー粉剤DLと同一の有効成分であるMR. ジョーカーEWは無人ヘリで登録有り。

4) トレボン乳剤と同一の有効成分であるトレボンエアは無人ヘリで登録有り。

※農薬を使用する際は, 農薬ラベルに記載されている使用方法・注意事項等を必ず確認のうえ, 周辺作物へ飛散しないよう留意する。



写真 1-a イチモンジカメムシ成虫



写真 1-b イチモンジカメムシ幼虫



写真 2-a ホソヘリカメムシ成虫



写真 2-b ホソヘリカメムシ幼虫



写真 3-a クサギカメムシ成虫



写真 3-b クサギカメムシ幼虫